

2009.1~3月 Event Schedule

問い合わせ 「工芸のいま 伝統と創造」イベント事務局 ☎092 (725) 1170
(10:00~17:00 土・日曜、祝日、年末年始を除く)

日 付	イベント名	場 所	時 間
■1月11日(日) ■2月28日(土)	「工芸のいま 伝統と創造」展関連イベント 有田磁器の音コンサート	1Fエントランスホール	①11:00~ ②13:00~ ③15:00~
■1月17日(土) ■3月1日(日)	「工芸のいま 伝統と創造」展関連イベント 楽しい!美味しい!お茶の淹れ方セミナー ※要申し込み(無料)	1F研修室	①11:00~ ②13:00~ ③15:00~
■2月7日(土)	「工芸のいま 伝統と創造」展関連座談会 祭り伝統工芸―山笠のハッピーは久留米餅!? ※要申し込み(無料)	1Fミュージアムホール	13:30~15:00
■2月7日(土) ■2月8日(日)	「工芸のいま 伝統と創造」展関連イベント 作家がお茶のおもてなし	1Fエントランスホール	①11:00~ ②13:00~ ③15:00~
■2月22日(日)	「工芸のいま 伝統と創造」展関連講演会 金子賢治が語る 工芸のいま 伝統と創造 ※要申し込み(無料)	1Fミュージアムホール	13:30~15:00

※上記イベントは予定であり、予告なく変更する場合があります。
詳細については、決まり次第ホームページでお知らせします。

だ・ゆ・うはくニュース

「工芸のいま 伝統と創造」展特別企画 作家が自作でお茶のおもてなし

工芸品は、使ってこそ真の良さが分かるもの。そこで今回、「工芸のいま」展に素晴らしい作品を出品している作家の作品で、お茶を楽しんでいただきます。しかも作家が自らの作品でおもてなし。人間国宝の作品を使う機会なんて、めったにない!

日 程:2月7日(土)・8日(日)
時 間:①11:00~ ②13:00~ ③15:00~
場 所:九州国立博物館1F エントランスホール
定 員:各33名(定員になり次第終了)
参加費:無料。ただし、当日特別展入場券もしくは半券の提示が必要。



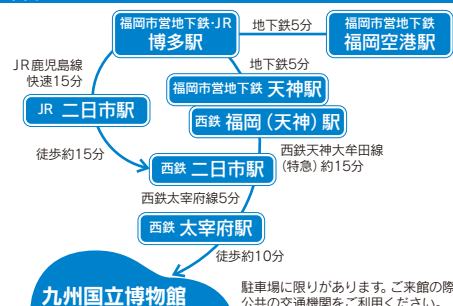
開館時間
9:30~17:00 (入館は16:30まで)

休館日
月曜日
(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日)
1月5日、12日は開館
1月13日は休館

観覧料(特別展は別料金)
一般:420円(210円)
高校生・大学生:130円(70円)

特別展「工芸のいま 伝統と創造」
一般:1,200円(1,000円)
高校生・大学生:900円(700円)
小学生・中学生:400円(300円)

交通案内



※()内は20名以上の団体料金。※障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に障害者手帳等をご提示ください。※中学生以下、70歳以上の方は、文化交流展示については無料。入館の際に年齢の分かるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証等)をご提示ください。※特別展「工芸のいま 伝統と創造」の観覧料で、文化交流展示もご覧いただけます。※満65歳以上の方は、特別展「工芸のいま 伝統と創造」の()内料金でご入場いただけます。入館の際に年齢の分かるもの(健康保険証、運転免許証等)をご提示ください。
*特別展「工芸のいま 伝統と創造」の開催期間は1/1(木・祝)~3/15(日)です。



九州国立博物館

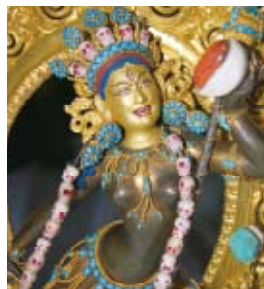
〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2
ご案内 NTTハローダイヤル
050-5542-8600
※オペレーターが対応します。通話料が発生します。
www.kyuhaku.jp

次回特別展も 楽しそう!

九博にチベットがやってくる!
2009年4月11日(土)~6月14日(日)

聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝

平均標高4000メートル以上という高地にありながら、豊かな文化が花開いたチベット。いまも仏教が暮らしに息づき、人々は礼拝や巡礼で五体投地礼を繰り返します。元、明、清を通じて中国皇帝とも密接な関係を築き、またインド後期密教の影響を強く受けたチベット仏教には不思議な姿をした仏が多数見られます。チベット自治区内でずっと守られてきた珠玉の名品との出会いはもうすぐ。ご期待ください。



ターキーニ天像、チベット・17~18世紀
ノルブリンカ

Asiage

九州国立博物館 季刊情報誌 アジアージュ
vol.11 平成21年1月1日発行 発行:九州国立博物館

Asiage

vol.11

特集

特別展

工芸のいま 伝統と創造
―九州・沖縄の作家たち
2009年1月1日(木・祝)~3月15日(日)

空前絶後の工芸展。

観る

遊ぶ

知る

きゅうはく

古賀フミ 佐賀錦織文能管袋「聴書」東京国立博物館、志村ふくみ 縮織着物「湖北残雪(紺)」東京国立近代美術館、生野祥雲 竹華器「怒涛」東京国立近代美術館、鈴木蔵 志野茶盤 東京国立博物館、増田三男 金銀彩盤「山背」東京国立博物館、松井康成 綾上曜裂文首手大蓋 東京国立近代美術館、松田権六 蒔絵箱「赤とんぼ」京都国立近代美術館、徳田八十吉(3代) 彫彩鉢「心円」東京国立博物館、荒木幹三郎、今泉今右衛門(14代)、太田富隆、大村通山、奥川俊右衛門、梶原光峰、金子政、川崎淑子、小島康彦、小西勝代、酒井田村右衛門(14代)、佐々木厚、白水英華、白水光虎、築城則子、戸田東庵、中里太郎右衛門(14代)、中村信吾、廣田洋子、宮崎祐輔、宗田智幸(館所蔵はクレジットを記載。個人蔵は作家名のみ。敬称略、五十音順)

九州・沖縄の工芸を読み解く7つのキーワード。

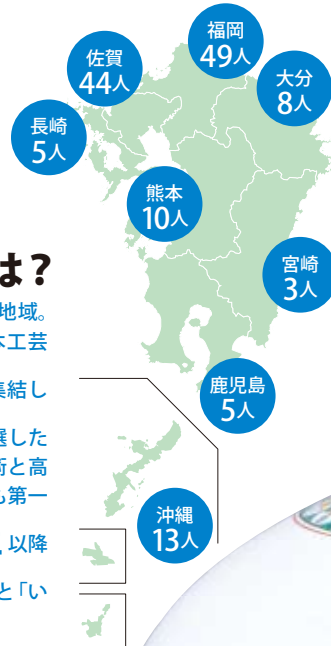
工芸王国・ニッポンをリードするのは、ずばり九州・沖縄。豊かな風土と多くの伝統の技が醸成された九州・沖縄で、いま何が起こり、どんな作品が生み出されているのか？ その問いに答え、現在進行形の工芸の熱い息吹を伝えるために、九州国立博物館が総力を挙げて取り組んだ特別展、それが「工芸のいま 伝統と創造—九州・沖縄の作家たち」だ。九州・沖縄で活動する7人の人間国宝をはじめ、精鋭マイスターの作品を一堂に展示する初の試み。せっかくの貴重な機会だけに、知っておくべきポイントをしっかり押さえて鑑賞したい。九州・沖縄の工芸を読み解くキーワードをガイドする。

① 人間国宝って何？

1950(昭和25)年、文化財保護法が制定され、伝統的な技術・技も無形文化財として保護されるようになった。54年には、その技を高度に体得している人を「重要無形文化財保持者」として認定。これがいわゆる「人間国宝」である。豊かな技を伝え、新たな創造性を生み出す絶対的なマイスターなのだ。今回、九州・沖縄の現役作家を取り上げた第一部「九州・沖縄の作家たち」には**人間国宝7人**が出品。これに第二部「伝統工芸の精華」では20人の人間国宝が加わる。

第一部
せいじほりもんつば
青盗彫文壺(2006年)
人間国宝 中島宏(佐賀県)
「中島青磁」[中島ブルー]。中国にも韓国にも日本にも無かった「青」を作り出した作者の青磁は、作者の名を冠して語られる。独特の色彩の世界の、進化の途中の目撃者たれ。

第一部「九州・沖縄の作家たち」出品者数



② 九州の工芸分布図は？

日本の中でも九州・沖縄は工芸が盛んな地域。なおかつ今回、九州・沖縄各県に住む日本工芸

会正会員159人中**137人**の作品が集結し

た。正会員は同会の展覧会に4回以上入選した人であり、正会員であること＝高度な技術と高い作品性を保持している人の証し。しかも第一部に出品されるのは

2000年以降の作品だけ。まさに九州工芸の「精鋭」と「いま」が詰まった工芸展なのだ。



第二部
たけさしあみひしもんていばん
竹刺編菱文提盤(1975年)
東京国立近代美術館
人間国宝 飯塚小玗齋(東京都)
人間国宝だった父、琅玕齋が創案したという竹刺編の技を用いて、菱文を表している。シンメトリーな形と緻密な編組には、竹工芸ならではの整然とした魅力があって、格調高らかな優品である。

第一部 前期
はかたおりおび
博多織帯「かずら」(2003年)
人間国宝 小川規三郎(福岡県)
一切破たんを見せない構成力と圧倒的な存在感は、確かな博多織の技に裏付けされたものだ。8256本にもなる経糸の一本一本をわが子のように熟知する作者。今日も博多織の新しい伝統を創り出す。

③ そもそも工芸って？

工芸とは「工=たくみ」の「芸=芸術」。技と芸術が融合してこそこの工芸である。身近な生活の中にも美を求め愛した日本人ならではの創造物、それが工芸。実用品でありながらも美術的価値の認められる逸品だ。歴史と伝統にはぐくまれた技と、新たな創造を追い求め「これでもかっ」とばかりに作り込まれた物。ううむ、何だかスゴイ。今回、陶芸、染織、人形、木竹

工、漆芸、金工、諸工芸と**7分野**から出品されている。



第一部
はくじりよくゆうはたんぼりもんかき
白磁緑釉牡丹彫文花器(2000年)
人間国宝 井上萬二(佐賀県)
有田伝統のろくろの技、その系譜に連なる作者の造形は、鋭角と曲線の組み合わせによって美を生み出す。白地に淡い緑のコントラスト。焼き物ならではの自由な表現力を見よ。

④ 工芸の見どころって何よ？

よくぞ聞いてくださった。この見どころを知るために、九博の研究員は九州・沖縄を駆け回ったのだ。会場では展示説明に、作品の特別アップ画像とともに「ここを見たらすごいと思う」ことが紹介されている。図録では「技のポイント」「見るポイント」が解説されている。これを手掛かりにすると

作家の**技のすばみ、こだわり**が伝わってくる。「よくぞここまで」が見えてくる。これが分かると、奥はどんどん深くなり、面白くなること請け合い。気が付いたら、工房にまで押しかけていたってことになるかも。



「工芸のいま」展はこうして生まれた！



「工芸ってどう見ていいか、分からない」「分からないなら、聞きに行け!」。すべては九博の研究員

10人が福岡～沖縄の全県に散ることから始まった。第一部出品者すべての作家にインタビュー。すると「よくぞ、そこまで」なるほど、そこにとうとうしてしまう作家のこだわりがざくざく。研究員の驚きと感動は展示、展示説明、図録に注ぎ込まれた。ああ、でも

もっと言いたい…、との声も。

⑦ 日本工芸の歴史もばっちり！

第二部「伝統工芸の精華」を見るべし。九州・沖縄の工芸の「いま」に影響を与えた九州内外の

20人の人間国宝を含む**24人**の

作品を展示。これぞまさしく、日本工芸の歴史なのである。ここだけで一つの展覧会になっちゃうような。歴史を踏まえることで九州工芸の「いま」や「未来」がさらに明らかに照らし出されてくる。

第二部
しそにんぎよう ありまのみこ
紙塑人形「有間皇子」(1978年)
福岡県立美術館
人間国宝 鹿兒島壽藏(福岡県)
博多人形を学びテラコッタを手掛け、後に紙塑人形を独創し、確立し、人形工芸の世界に影響を与えた。アララギ派の歌人でもあり万葉の歌をテーマとすることも多い。



そのすべてが九博に集結する。



知る

リサー知！
きゅうはく

「博物館科学課」って何をしている所ですか？

“博物館”と“科学”って一見あまり関係なさそうだけど、「博物館科学課」って一体どんなことをしているんだろう？ どうやらこの言葉を使っているのは、全国の博物館の中でも九州国立博物館だけらしい。九博の秘密が隠されているとにらんで、今回はこの謎をリサー知！ 博物館科学課の本田光子課長、詳しく教えてください。



唐船・南蛮船図屏風
時代・世紀：安土桃山～江戸時代、17世紀
所蔵：九州国立博物館

文化財はとってもデリケート 細やかな環境管理が欠かせません

博物館ってどんな所でしょう？ 皆さんは展示を思い浮かべるかもしれませんが、それだけではありません。時代や歴史の証しとして文化財を未来へ“守り伝える”ことも、博物館の大切な役割です。「博物館科学課」とは、科学的なアプローチで“守り伝える”ことを専門に取り組む、九博ならではのチームなんです。当館の来館者は多い日で1日約1万人。たくさんの方が訪れるということは、それだけこ



博物館科学課長 本田 光子

みやほこりも入り込むということ。これを放っておくと、害虫の繁殖やカビの原因になり、大切な文化財にダメージを与えかねません。そこで、露出展示している復元文化財などは閉館後、学芸員の資格を持つNPO法人のスタッフが一点一点メンテナンスします。これを毎日欠かさ



修復には高度な技能と集中力が欠かせません

ず実践しているのは世界中で九博だけ。大変な労力ですが、文化財の保護にはかなり効果的です。ほかにも展示ケース内の温湿度の管理や空気中の二酸化炭素量の調節を細かく行うなど、皆さんに気持ちよくご覧いただきながら文化財を守るため、常に館内の環境を管理、分析しています。

バックヤードでは保存・修復中 先人の知恵と最新技術をのぞいて

展示期間外の収蔵品は、収蔵庫で大切に保管し、必要に応じて修復します。保存と修復には、現代の優れた科学技術と日本人の伝統的な知恵や技術を融合しています。例えば、収蔵庫の空調はコンピューターシステムで管理していますが、保存箱や棚、収蔵庫の内装はすべて木材。湿度が高く地震の多い日本には、調湿性に優れ、滑り落ちにくい木による保存が適しています。これは阪神・淡路大震災で、欧米型の収蔵庫に大きな影響が出たことから、あらためて見直されました。

修復も同じです。作品の価



窓があるのは11ある収蔵庫の一部屋だけ。毎週日曜日の「バックヤードツアー」ではボランティアさんが案内します

値を損なわないよう、デジタル技術で材質と構造をしっかりと調査・把握した上で、伝統的な技術による地道な修復作業を施しています。こうした技術を若い人や海外の技術者に伝えていくことも、博物館の大切な務め。九博には全国から技術者が集結しているんですよ。「バックヤードツアー」では、一般の方もこうした施設の一部を窓越しに見学できます。文化財へ

の影響を防ぐため、博物館の裏側は公開しないのが普通ですが、そこが“市民と共に歩む”九博らしさ。もちろん管理体制は万全なので、安心して“博物館が何をどう守り、伝えているか”を体感してください。



X線CTスキャナで虫食い、亀裂、修理の跡をチェック

重要文化財 阿弥陀如来立像
時代・世紀：平安時代、12世紀
所蔵：九州国立博物館
展示場所：文化交流展示室 関連展示室6室



Exhibition & Museum Card



きゅうはく
カード

「文化交流展示室」に展示されるさまざまな文化財、九博の建物をカードにしました。九博を彩る主役たちを集めてあなたも九博通になろう！ 次回にカードを持って実物と見比べてみるのも楽しいですよ。



周茂叔愛蓮図



土偶



環珞付銅製経筒



山水花鳥銅製蓋付ナフ入れ



カンヌンカルタ



三角縁神鏡



九州国立博物館



九州国立博物館



九州国立博物館



information

文化交流展示室
特別公開

国宝 初音の調度

期間：2009.1.1～2009.2.1
場所：文化交流展示室 基本展示室

徳川美術館所蔵の“日本一豪華な婚礼道具”から「文台・硯箱」と「祝枕」の2件が九博に。新年にふさわしい、めでたく華やかな国宝です。江戸時代の工芸の粋が集結した、三代將軍家光の娘・千代姫の「初音の調度」。当時最高の蒔絵師とうたわれた幸阿弥家十代の長重による蒔絵技術の最高峰であり、贅の限りを尽くした逸品。源氏物語の「初音」の帖をモチーフにしたデザインで、物語に登場する和歌「年月をまつにひかれてふる人に 今日うくすの初音聞かせよ」の文字がちりばめられているのも見どころです。



文台・硯箱
(ふんだい・すずりばこ)
所蔵：徳川美術館

1639 (寛永16) 年、尾張家に満2歳6カ月で嫁入りしたという千代姫の嫁入り道具。和歌の上の句が硯箱のふた表に、下の句が文台に表されている

高蒔絵をはじめとした高度な技術を凝縮。一日見ても飽きることのない「日暮らしの調度」という別名もあるほど

「ひ」

「月」

